

普及活動検討会実施報告書

仙台農業改良普及センター  
実施月日：令和5年2月3日  
実施場所：仙台合同庁舎1001会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	令和4年度普及指導活動について 「プロジェクト課題の取組状況について」 完了課題 No.2「シャインマスカット」の産地形成に向けた生産・販売力向上 継続課題 No.1 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着 No.3 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化 No.4 水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上

2 検討委員の構成

(単位：人)			
区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
1 令和4年度普及指導活動について  No.2「シャインマスカット」の産地形成に向けた生産・販売力向上	A委員 5  B委員 5  C委員 4  D委員 5  E委員 5  F委員 5  G委員 4  平均点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人がバラバラに栽培していた新品種の果樹を2か年で産地部会として活動の礎を築いた活動で大変すばらしいと思います。</li> <li>収量アップ技術の勉強会だけでなく、栽培チェックシートなど技術の見える化、自己点検できる仕組みを作成した点もすばらしいです。実需者の意見を聞き、少量房の開発や販促物の開発も競合産地が増える中で大事な取り組みです。実需者のモニターの結果をもっと聞きたかったです。</li> <li>生産技術の指導だけでなく、パンフレットなど販路の開拓等の支援も評価出来る点と思います。作物の増収と共に農家の年収向上に繋がれば新規就農者の確保にも繋がると思いました。</li> <li>生産技術の高度化、省力化支援により既に収量増、品質の良い生産が出来ていると思います。生産量、面積において、まだ、産地というには、小さいので今後の産地形成、面積拡大に向けた支援をお願いします。</li> <li>光反射シートの導入等により目標値を超える実績となっている。これは計画時点での目標設定と課題に対するアプローチが適切だったからと考えられる。プロジェクト課題としては今年度で終了となるが、活動期間で培ったものを今後も自主的に進めてほしい。</li> <li>光反射シートの敷設による慣行収量費30%増、花穂整形器使用による作業時間25%削減、消費者ニーズに対応した小房ぶどう栽培等の効果検証結果は達成度も高く、取り組みを始める生産者が増えてきたことも、これまでの取組の成果とっております。今後も他産地との差別化が図れるような品質や品種の選定も含めて指導いただければと思います。</li> <li>宮城県を代表する農産物は米であるが、これに次ぐ農産物もなく、一方隣県では米に加えて果樹や特徴ある園芸への取り組みが盛んです。そのような中、あさひなぶどう部会では「シャインマスカット」の栽培にチャレンジしており、その活動に対し敬意を表します。今後は、県を代表するぶどう産地になることを期待しています。</li> <li>栽培技術支援により目に見えて品質・収量も向上し、生産意欲の向上につながっている。また同部会が「仙台シャインマスカット出荷規格」作成に参加できたことも評価できます。今後は産地化構築に向け更なる部会員が一丸となれるようプロジェクトは終了するが引き続き支援をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御意見のあった栽培チェックシートによる自己点検できる仕組みの継続と部会として自主的に実需者ニーズや産地評価を聞く機会を設けていただく等、選ばれる産地になるよう関係機関と連携し、フォローアップしてまいります。</li> <li>今後も関係機関と連携して、産地PR支援や新規栽培者の掘り起こし等、部会活動を支援してまいります。</li> <li>今後も関係機関と連携して部会活動を支援し、産地として生産量、面積拡大を図ってまいります。</li> <li>部会を中心に自主的な取組が進むようフォローアップしてまいります。</li> <li>今後も関係機関と連携して、産地PR支援や新規栽培者の掘り起こし等、部会活動を支援してまいります。</li> <li>今後、当部会の商品がより消費者に選ばれるために、県内初のぶどう部会という有利性を活かしつつ、地域ブランド力向上に向けて関係機関と連携しフォローアップしてまいります。</li> <li>「仙台シャインマスカット出荷規格」が当部会内でより浸透し、品質向上や産地PRにつながるよう関係機関とともに今後もフォローアップしてまいります。</li> </ul>

No.1 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着	A委員 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高収益作物の中で、えだまめは収支が見込まれ普及の可能性が高いと感じます。排水対策が大事で機械の検証も勉強になりました。</li> <li>普及の課題点は選別出荷作業の労務負担かと思います。J Aと連携して共同選別、バラ出荷先の販売先模索など次年度に取り組んで欲しいです。また、労務時間の計測により経営指標のデータも作成できれば普及につながるの期待しております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地域におけるえだまめの出荷体制において、生産者は収穫物を集荷場へ搬入するところまで担い、それ以降は、J A及びJ A全農みやぎがそれぞれ洗浄脱水、運搬作業及び選別調製作業を担う分業体制が整っていることから作柄や品質の変動にも円滑に対応できる出荷体制となるよう助言してまいります。また労働時間の計測については、農業・園芸総合研究所の情報経営部と連携し、作業時間等の調査を実施しており、土地利用型法人によるえだまめ栽培の経営指標づくりを計画しております。</li> </ul>
	B委員 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作経営が厳しい現状の中、さらに、近年の様々な天候変動に直面しています。枝豆への取組みは水稻の閑散期を顧慮し、多種の枝豆にする等良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻作業との競合回避に配慮しつつ、複数品種の組合せによる作期分散を支援してまいります。</li> </ul>
	C委員 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷体系の検討から生産体系、法人間の収穫が重ならない様に栽培計画を立てて、生産過剰とならない様にしている点が良かった。</li> <li>・土地利用型法人は、機械作業で大面積を耕作するところにメリットがあります。その機械作業が行える様なほ場環境の整備、排水対策に期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えだまめが高収益作物として定着するためには、大豆と同等以上の所得の確保が大きな課題になると考えます。そのためには、収量の高位安定化を図ることが第一であり、ほ場の排水対策や雑草対策について、引き続き支援してまいります。</li> </ul>
	D委員 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨による冠水被害で収穫まで至らないほ場もありましたが、補助暗渠施工により一定の効果が見られたことは実績として評価できます。水田で畑作物を栽培する際の排水対策として、今後繋がることを期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水対策の取組が、他地域へのモデルとなるよう、引き続き現地実証を行ってまいります。</li> </ul>
	E委員 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は低温や大雨の影響を受けて、思うような成果があげられる状況ではなかったと思われます。一部では、収穫皆無のほ場もあった中で、収穫できたほ場では目標反収を達成したので、令和5年産については、更に高い目標を持って取り組んでいただきたいと思います。補助暗渠の検証についても、大雨により想定した成果は上げられなかったと思いますので、令和5年産において、再度効果を検証をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も引き続き、補助暗渠による排水対策効果の検証に取り組んでまいります。</li> </ul>
	F委員 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当地区の枝豆生産技術は構築されているようなので、次は安定した販売単価の確保、そういった所得の部分に課題になるのでしょうか。他の産地でも枝豆の栽培面積は増加傾向にあり、今後は安定生産に加えて、販売力（単価の確保）の強化も課題とし、取り組んでいただければと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売対策については、全農みやぎが主体となって「仙台えだまめサプライチェーン事業」により検討が重ねられることから、連携する食品関連企業のニーズを生産者と共有しながら、所得向上につながるよう支援してまいります。</li> </ul>
	G委員 3 平均点 3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年は洪水被害により、1法人のほ場が皆無となりましたが、実証試験結果を他組織とも共有し、リスクを最小限に抑えるため、排水対策を徹底が浸透することを望みます。それらにより、生産者手取りが向上できるよう今後も支援をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助暗渠の効果について他組織と情報共有を図るとともに、排水対策の徹底が生産者の所得向上につながるよう支援してまいります。</li> </ul>
No.3 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化	A委員 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地の高齢化、水稻、大豆、ソバの反収の低さに改めて地域を維持していくご苦労を感じました。園芸品目の導入により選別作業等を構成員も巻き込むことで、一部の役員が作業するのではなく、組織が一体となるのが大事かと思います。</li> <li>また、秋保は、構成員の中には仙台に通い、定年後に役員になる予備も埋もれていると思います。今後10年先に向けた話し合いの場と中期事業計画を最終年度に期待したいです。ワイナリーやホテルと連携、将来的には企業に出資してもらうなどの可能性も模索できるといいかと思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の収益を上げていくためには基幹作物の反収向上は不可欠であることから、収量、品質の向上に向けた支援を引き続き行ってまいります。また、園芸品目については、法人経営の一部門として位置付けられるよう支援してまいります。</li> <li>・人材の確保につきましては、まずは構成員の関係者に呼び掛けし掘り起こしを行い、不足の場合は構成員外の人材も視野に入れながら確保できるよう支援してまいります。</li> <li>・これらを通して、対象法人と議論を積み重ねながら、中期的な視点で将来の方向性等を整理できればと考えております。</li> </ul>
	B委員 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3か年計画ですが、組合員の年齢も3歳加算されます。どこの地方農村の課題であり、役員や現状の変化にプラスして、地域や女性、地域以外の人材や素材を巻き込んだ展開を期待したいところと思われました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の確保については、喫緊の課題であると対象法人とともに認識しております。まずは構成員の関係者に呼び掛けし掘り起こしを行い、不足の場合は構成員外の人材も視野に入れながら確保できるよう支援してまいります。</li> </ul>
	C委員 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産技術向上、新規品目導入、規模拡大による新規雇用の為の受入体制を整える活動にはなっていると思います。あとは、生産組合、集落営農の延長ではなく、法人を経営、雇用を行ってゆく意識改革も大きな課題と位置づけ今後の活動に期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、法人の維持・発展のためには経営管理力や人材の確保・育成は重要であることから、経営分析や今後取り組む人材確保に向けた支援を通じて、意識付けを行ってまいります。なお、対象法人は、J A仙台の出資型法人でもあることから、連携し取り組んでまいります。</li> </ul>
	D委員 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人経営の体質強化という目標のもと、基幹作物の生産向上、新規作物の導入、労務管理の3課題の解決を図る計画は評価するが、一番問題である労務管理が視察等による課題認識程度に留まっているのが残念でした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は、人材確保やそれに伴う労務管理等を最重点に位置付け取り組んでまいります。</li> </ul>
	E委員 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻・大豆・そばだけでなく、新規園芸品目生産の取組が積極的に進められているようで、今後、水稻・大豆・そばの品質と収量の向上、新規園芸品目の生産拡大とそのことによる担い手の確保にまで繋がるような取組となるよう期待しております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹作物の収量と品質の向上に加え、園芸品目を導入することで、周年雇用に繋がるよう支援してまいります。</li> </ul>
	F委員 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地では水田として利用しづらいほ場が多くあり、やむなくそば栽培で対応しているケースがあります。当地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋保地区のそばについては、「秋保在来そば」として、生産拡大やブランド化に取り組んでおり、実需者からの需要も多い状況</li> </ul>

	G委員 4  平均点 3.7	<p>区でも農地保全の観点からそのようなほ場が含まれており、そのため地域の平均反収は低くなってしまっているようです。</p> <p>今回示された水田活用交付金の5年ルールは、これまでの取組を否定しかねない大問題だと考えていますが、今後の普及活動の中で、交付金が無くとも“そば”部門の採算が合うような取組になればと思っております。</p> <p>・集落営農組織の運営については、農業政策により大きく左右されるので、水張ルールの5年要件なども含めた検討も必要となってくると思われる。安定生産技術支援については、基準年よりも増収されているところは、評価できます。</p>	<p>にあります。また、対象法人の経営の1つの柱にも位置付けされていることから、引き続き、技術支援を行うほか高付加価値化や販路拡大等についても、関係機関と連携しながら支援をしてまいります。</p> <p>・なお、水田活用交付金の5年ルールについては、制度の状況を見極めながら、市町村やJA等関係機関と連携し対応を検討してまいります。</p> <p>・水田活用交付金の5年ルールも含め、政策の動向を踏まえて、市町村やJA等関係機関と連携し対応を検討してまいります。</p>
No.4 水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上	A委員 5  B委員 4  C委員 4  D委員 5  E委員 5  F委員 4  G委員 4  平均点 4.4	<p>・今後の農地維持のためにさらなる大規模化に対応するための栽培技術として大事だと思います。勉強会をとおして地域のネットワークができていて、今後はほ場間の視察などお互いを刺激させていく計画もいいと思います。事例の作業体系や月毎の労務時間など移植と乾直の差が明確で農家さんもイメージができています。単なる比較だけでなく、移植の空いた時間に野菜の導入による収益の増加を提案できる点も非常にいいと思います。次年度は、さらに具体的にどんな園芸を導入して収益につなげたかまで事例が作れることを期待します。</p> <p>・乾田直播が可能な地域であり、畑作も盛んな地域なので、取組は大いにいに評価されると思います。肥料や薬剤が高騰している中、地域がら畑作中心なので、国の方針の水田を畑作に活用する農地利用の政策と上手く兼ね合いができれば、さらに良いかと思われました。</p> <p>・乾直作業は、ほ場条件、天候に左右されやすい技術なので、ほ場条件の違う生産者同士の勉強会等の情報共有は、効果が期待できる。更なる新技術向上に向けて、アグリテックの活用も期待する。</p> <p>・仙台地域の主生産物である米について、低コスト・省力化を見込める乾田直播手法の定着というテーマ設定が良く、参加者の広がりもみられるということで十分な成果をあげている。成果を活かして土壌条件等の環境の違いに応じた栽培指針が作られることを望みたい。</p> <p>・水田乾田直播による栽培技術向上ということで、積極的に勉強会等を開催し、今年度の成果として大幅な反収増となったことは、また今年産以降に繋がる大きな成果になったと思います。</p> <p>収量がしっかり確保できるような状況となってきたのかと思いますので、当地区がモデルとなって、県内全域への普及、更に他品目生産への意欲、全体収益増に繋がればと思っております。</p> <p>・乾田直播の栽培技術に取り組める地域（ほ場）は限定されているものの、更にスマート農業の技術を取り入れるなど、低コスト大量生産型モデルのお手本になればと思っております。</p> <p>・移植並みの収量を確保できたことは評価できる。しかし、まだ課題等についてはあるように思われますので、しっかりと検証がなされ少しでも、早い栽培技術の確立を望みます。</p>	<p>・園芸品目の導入または、園芸部門の面積・作型の拡大、作期の延長等により増収に繋げるためには、乾田直播栽培面積の拡大が不可欠であると考えます。まずは生産者の技術が高位安定し、自信を持って乾田直播栽培面積を拡大できるよう支援してまいります。</p> <p>・水稲面積のうち、乾田直播栽培面積を拡大することで、春先において労力的に余裕ができ、畑作物（露地野菜など）に割ける時間が増加すると思えます。そのためにも、まずは生産者の技術が高位安定し、自信を持って乾田直播栽培面積を拡大できるよう支援してまいります。</p> <p>・県農業振興課が実施するアグリテック導入の検証結果について情報収集し、勉強会出席者へ情報提供を行うなど、アグリテックの活用も視野に入れて、乾田直播栽培の技術支援を行ってまいります。</p> <p>・土壌条件が異なる栽培指針については、栽培暦や地域版作業マニュアルの中に、その条件における作業ポイントを併記したいと考えております。</p> <p>・次年度以降も収量が高位安定するよう、引き続き技術及び情報共有支援を行います。</p> <p>また、当地区の成功事例などを、地域版作業マニュアルなどの形でまとめており、次年度ではブラッシュアップさせて他地域への技術普及と、さらなる直播面積の拡大を図ります。</p> <p>・県農業振興課が実施するアグリテック導入の検証結果について情報収集し、勉強会出席者へ情報提供を行うなど、アグリテックの活用も視野に入れて、乾田直播栽培の技術支援を行ってまいります。</p> <p>・収量が大幅に向上しましたが、依然として「雑草防除」、「ほ場準備」、「肥培管理」などで課題があり、さらなる増収の余地はあると考えています。そのためにも、今年度明確化された課題が解決できるよう、支援を行ってまいります。また、課題や解決策を共有することで、地域全体の更なる技術の底上げを図ってまいります。</p>
その他	A委員   B委員	<p>・どのプロジェクトも目標数値と過程と成果の検証までロジカルに整理されておりすばらしい発表でした。今後の農家減少による地域の歪をより意識して中長期的な種まきを今後の普及活動により重点を置いてほしいです。大変ご苦労様でした。</p> <p>・多岐にわたる指導活動ありがとうございます。今後更に厳しい農業と思われそうですが、そのような時こそ、変革のきっかけと思われしますので、今後とも、飛躍的な活動を期待します。</p> <p>農業を取り巻く厳しい環境の改善はいまだ見通せませんが、少しでも生産に意欲をもって取り組めるよう今後も各方面からご支援をお願いします。</p>	<p>・今後とも、関係機関と連携を図りながら、中長期的な視点から普及指導活動を展開していきたいと思えます。</p> <p>・農業の変革面の一面では、アグリテックやICTの活用があげられますが、農業者の減少や経験の浅いオペレーターでも機械等の作業等が可能となると考えられます。また、アグリテックやICT導入によって若い人が農業への興味を持ったり、若い生産者の生産意欲が向上することが期待できると思われまます。このため、現地での実証結果等も含めて情報提供していきたいと思えます。</p>

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する